



## レビー小体型認知症サポートネットワーク福岡 第 20 回研修会・交流会



寒さが厳しくなる手前の 2020 年 12 月 10 日（木）に天神・BiVi 福岡 で、協力医 合馬 慎二先生の司会のもと、DLBSN 福岡の第 20 回研修会・交流会を開催しました。新型コロナウイルスの感染対策として、参加者の皆様には前回同様、検温と入室時の手指消毒、マスクを着用して頂きご参加いただきました。今回も特別講演は行わず、時間を約 1 時間半と短縮して行いました。6 名の方の参加があり、このうち初参加が 2 名（ご夫婦）でした。

### レクチャー「レビー小体病認知症の診断とコロナ対策③」

顧問医である坪井先生から、レビー小体型認知症の診断とコロナ対策③についてレクチャーがありました。その後、コロナ期の過ごし方の説明が行われました。読書や日記、好きな趣味などの活動で日常を忙しくすることや、定期的な運動を行うこと、一人暮らしの場合は、友達や家族と連絡を取ることがアドバイスされました。また、薬の効きが悪く日常生活に影響がある場合は、医師に相談するようにとお話されました。内服は、ゆっくりでも、忙しくても時間通りに行うことが大切です。のんびりすると薬の効果が速いため、オフで効果を待つときは慌てずにゆっくりと呼吸をすることや確実に飲み込み、のどを通過させることが大事だとお話されました。

### グループワーク

顧問医、協力医を囲み、円になって、お一人ずつ自己紹介とご家族から現状や相談ごとについてお話して頂きました。いくつか紹介します。

- ・幻覚を話してくることにどう対応していけばよいか。

→ご本人とご家族の世界がある。ご本人は幻覚を冷静に見ているときもあるので、放っておいてもよい。苦痛に感じているわけであれば、ご家族は聞いてあげるだけでよい。幻覚に対するご家族のとらえ方が大事。ご本人は話すことで安心するので、聞くことが大事。薬以上の効

果がある。必ずしも幻覚が悪いことではなく、むしろ、認知症が進むと言わなくなる。

・進行を遅らせるためにはどうしたらよいか。

→ご本人に色々と自分でしてもらうことが大切。やれることはやってもらい、活動的に過ごしてもらおう。デイサービスには、ご本人に合ったところ、たとえば食事が美味しい場所などあるので、積極的に活用するとよい。

ご家族とご友人のネットワークを使って支えていくことが大事である。

次回も新型コロナウイルス感染の状況によっては延期・中止や一部会の内容が変更になる可能性もありますのでご了承ください。また、ご参加の際には、マスクの着用、自宅での体温測定をお願い致します。

次回の研修会・交流会は、2020年3月18日（木）18時～

BiVi 福岡 6階会議室です。



報告者：DLBSN 福岡 副代表坂梨左織